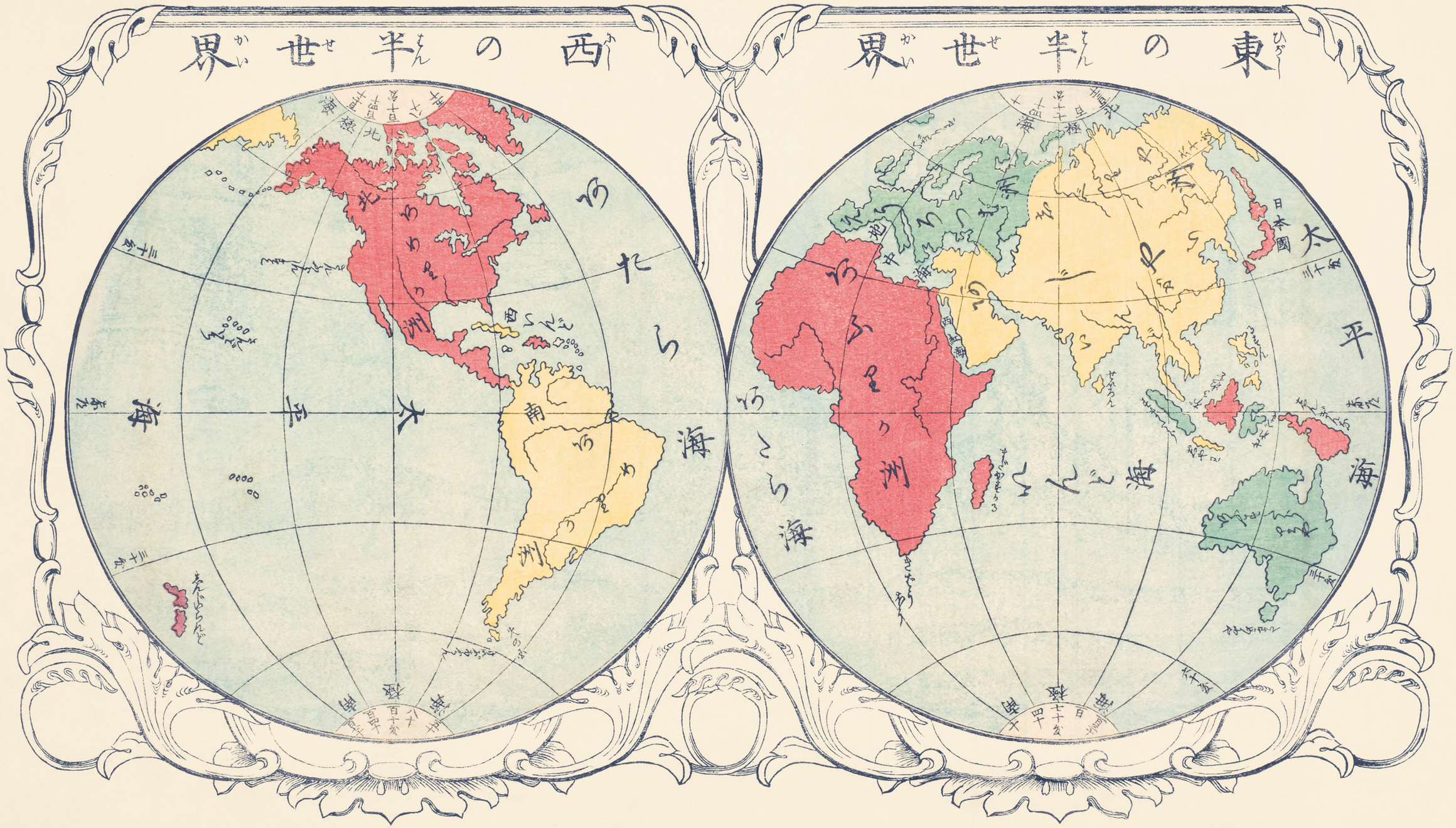
Keio University

1858
CALAMVS GLADIO FORTIOR

慶應義塾大学の国際交流 ＿＿＿ 年次報告書

2025



慶應義塾大学の国際交流

年次報告書

2025

Index

挨拶 __2

国際化ポリシー／国際化推進体制 __3

2025年度の取り組み

1. グローバル・パートナーシップ __5
2. 教育・研究活動 __9
3. 国際広報 __23

イベントカレンダー __25

担当常任理事挨拶

Foreword by the Vice-President for Global Engagement



留学のあり方はここ数十年で大きく変化してきました。かつては学位取得のために数年にわたって留学することが期待されていました。しかし、21世紀の大学生は、子供の頃から海外旅行をしたり短期の滞在をしたりしたことがあり、もはや外国は遠い憧れでなくなっています。インターネットを使って外国の事情は広く分かるようになり、旅行や短期の留学、学術交流のための出張も盛んに行われています。

慶應義塾大学では、350を超える海外の協定校と交流しています。また、海外の大学で行われる各種の短期プログラムへの橋渡しを行うとともに、慶應義塾大学で行われる短期プログラムに外国人留学生を受け入れ、慶應義塾のキャンパスにおいて学生との交流の機会を提供しています。さらには、多くの海外の研究者や政治経済分野のリーダーが来訪し、学生との対話の機会を持ってくれています。

大学における国際化はもはや旧来型の留学だけに限定されず、さまざまな形の国際交流を日常的に展開する方向へシフトしており、これは世界的な潮流です。こうした変化に鑑み、長期に加え、短期、超短期の留学や研究交流の支援を含めた慶應義塾のキャンパスでの国際交流の活性化に力を入れていきます。

土屋 大洋

Motohiro Tsuchiya

国際化ポリシー

Policies for Internationalization

慶應義塾大学での国際化については以下の三点を目標として進めて行きます。

国際大学コンソーシアムを通じた多国間の大学外交および二国間の国際交流を通じた国際プレゼンスの拡大

- U7+ Alliance of World Universities、APRU（Association of Pacific Rim Universities）、RENKEI（Japan-UK Research and Education Network for Knowledge Economy Initiatives）、APAIE（Asia Pacific Association for International Education）などへの積極参加
- パートナー大学の拡充と相互訪問の実施

教育活動における国際化の拡充

- 国際センター科目の活用
- 派遣および受入の双方における短期国際交流プログラムの拡充と活用
- 一貫教育校における国際化の取り組みの拡充

研究活動における国際共同研究の推進

- WPI（世界トップレベル研究拠点プログラム）およびJ-PEAKS（地域中核・特色ある研究大学強化促進事業）における国際共同研究の拡充
- 海外の研究者との共著をはじめとする国際共同研究促進

国際化推進体制

Organizational Structure for Internationalization

慶應義塾の国際関係部門

法人部門

塾長

常任理事（国際担当） ―― グローバル本部（GEO）
事務局: グローバル本部

関係部門

塾長室
広報室
学術研究支援部
入学センター

教学部門

国際センター
事務局:学生部
国際グループ
学生生活グループ福利厚生支援チーム
各地区国際担当

日本語・日本文化教育センター ―― 常任理事（教育担当）
事務局:学生部

GICセンター ―― 常任理事（日吉担当）
事務局:日吉学生部

目標

これまでの成果を礎に、国際化をさらに加速させ、世界と共創する研究大学へ

2029-

地球規模の課題解決に貢献する、世界と共創する研究大学へ

- 世界的なレピュテーションの向上
- 競争力のある人材の獲得・輩出
- 持続的かつ多様な財政基盤の確立、戦略的活用

2024-2028

ポストSGU始動、国際化の深化

研究・教育活動の国際化をより一層推進し、持続的な成長のための基盤を強化

- グローバル・パートナーシップの拡充（世界の有力大学・機関とのネットワーク強化）
- 教育の国際化の進展（学生モビリティのさらなる増加、AI時代の教育改革への対応）
- 研究の国際化の加速（国際共同研究の拡大、国境と学術領域を超えた研究者交流の活性化）
- 社会・産業との共創（地球規模課題の解決に向けた共創、産官学連携・オープンイノベーションの推進）
- 資金基盤の強化と戦略的活用（J-PEAKS事業等の外部資金、基金、寄付など）

2009-2023

G30事業*1からSGU事業*2へ

国際化の基盤を構築し、多くの成果を創出

- 学生の海外留学/モビリティの増加
- 英語による教育プログラムの充実（GIGA、PEARL）
- 海外大学とのパートナーシップ拡大
- 国際的文理融合研究の推進
- 学生が海外研究者から指導を受ける機会の拡充
- 英語による情報発信の強化
- SGU事業終了後の自走化財政基盤としてグローバルエンゲージメント基金を創設 等

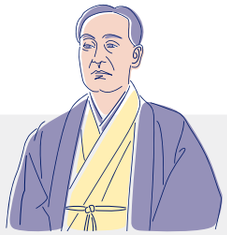
*1：文部科学省「国際化拠点整備事業（グローバル30）」
*2：文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」

1858-

開学以来の海外志向と先導の精神

- 創立者（福澤諭吉）による欧米諸国の見聞
- 多彩な語学教育
- 国際化における私立大学のパイオニア。全国に先駆けて、国際センターを設立（1964年）
- 多くの欧米トップ大学とのパートナーシップの実現

Keio University
1858
CALAMUS GLADIO FORTIOR



2025年度の取り組み

Key Initiatives in Academic Year 2025

1.　グローバル・パートナーシップ

1858年に創立した慶應義塾は、その長い歴史の中で早くから国際交流を重視し、海外のパートナーとの関係を着実に築いてきました。現在では世界の350以上の大学・高等教育機関等と協定を締結し、学生交換、学術交流、研究連携を展開しています。また、大学コンソーシアムの一員として、海外の大学と連携し、世界や地域に貢献する大学として積極的に活動しています。

海外協定校・機関数

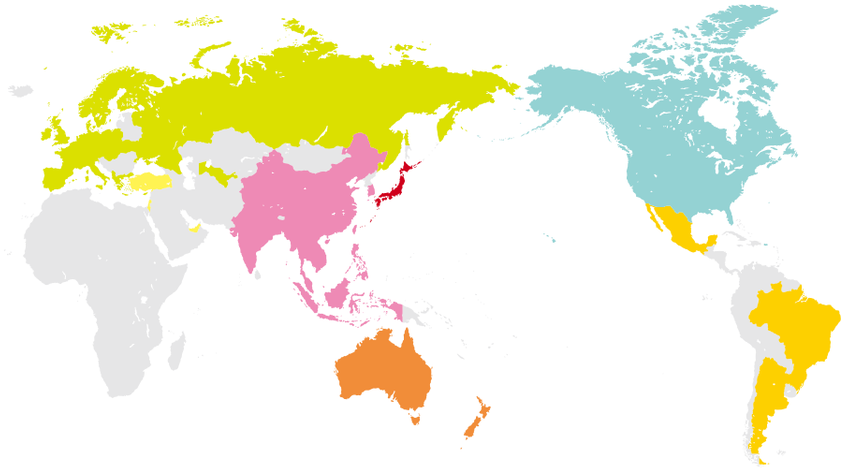
354



2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
286	311	323	342	350	344	341	339	332	339	354

地域別 海外協定校・機関数

欧州	アジア	北米	オセアニア	中南米	中東	アフリカ	機関その他
158	89	62	10	6	3	0	26



※各年度末（翌年3月31日）時点（ただし、2020年度以前は各年5月1日時点）

世界大学コンソーシアムを通じた活動

U7+Alliance of World Universities

U7+アライアンス（U7+）は、2019年にフランス・パリ政治学院のイニシアティブで創設された世界大学連合です。G7と非G7諸国の約50の研究大学が加盟しています。年に一度の学長会議では、世界が直面する共通の課題について学長同士が直接議論を重ね、G7サミットの議長国政府に大学の立場から提言するなどの活動を行っています。慶應義塾大学は創設当初から加盟し、現在はChair（議長）として参画しています。

伊藤公平塾長がU7+のChair（議長）に選出

2025年7月、伊藤塾長が、U7+のChair（議長）に選出されました。2023年にU7+学長会議のホスト校を務めるなど、慶應義塾大学によるこれまでの積極的な国際連携やリーダーシップが高く評価された結果です。任期は2025年7月から3年間です。今後、本学はU7+の議長校として、加盟する各国の大学と連携しながら世界共通の課題解決に貢献していきます。

U7+学長会議において、G7首脳会議（サミット）に向けたコミュニケ（共同声明）を発表



2025年4月22日・23日、U7+学長会議がカナダ・オタワで開催され、世界16カ国・80名以上の学長らがオタワ大学に集いました。慶應義塾大学からは、伊藤塾長がオンラインでPresidential Steering Committee Meetingに参加し、土屋常任理事がPresidential Delegateとして現地で参加しました。U7+は、「AIの発展における大学の役割」と題したコミュニケ（共同声明）をまとめ、責任あるAI開発への貢献のために高等教育機関が果たすべき役割を提言しました。伊藤塾長を含めた40大学の学長が賛同したこの共同声明は、2025年のG7サミット議長国であるカナダ政府に手交されました。

U7+ Presidential Delegates Meeting



2026年1月26日から27日、U7+ Presidential Delegates Meetingが開催され、伊藤塾長、土屋常任理事が出席しました。本会合は東北大学が主催し、世界30大学42名の参加者が一堂に会しました。2026年4月パリにおけるU7+学長会議に向け「急速に変容する世界における大学の社会的役割（The Social Role of Universities in a Divided World）」などをテーマに昨今の国際情勢をふまえ、各国の高等教育の現状や課題について、活発な議論が展開されました。

APRU（環太平洋大学協会）

APRUは、環太平洋地域の教育・研究・企業経営における協力体制の構築を促し、同地域の経済・科学・文化面での発展に貢献することを目的として1997年に創設された大学連合組織です。環太平洋地域の60以上の大学から構成されます。慶應義塾大学は2002年から加盟し、現在はSteering Committeeメンバーとして参画しています。

APRU年次学長会議にて「人類の長寿とその課題」をテーマに議論

2025年6月22日から24日にかけて、米国・サンディエゴにおいてAPRU第29回年次学長会議が開催され、伊藤塾長および土屋常任理事が出席しました。会議には、APRU加盟大学の学長など120名以上が参加し、「Human Longevity in a Changing World: Innovation, Education, and Leadership for a Resilient Future（変化する世界における人類の長寿：イノベーション、教育、そしてレジリエントな未来のためのリーダーシップ）」をテーマに、人類の長寿とそれに伴う社会的・科学的課題について活発な議論が交わされました。「AI and Longevity: Global Challenges and International Research Collaboration（AIと長寿：グローバルな課題と国際共同研究）」と題したパネルディスカッションでは、伊藤塾長がモデレーターとして登壇し、高齢化研究の最前線をいく慶應義塾大学医学部百寿総合研究センターの取り組みなどを紹介しました。





APWiL (Asia Pacific Women in Leadership)

APWiLは、アジア太平洋地域における次世代女性リーダーの育成を推進する、APRUの中核プログラムの一つです。慶應義塾大学はプログラム創設時より奥田暁代常任理事がコアメンバーとして活動しているほか、毎年本学から推薦された教員がAPWiLメンタリング・プログラムに参加しています。さらに、このノウハウや特長を取り入れて実現した「慶應義塾メンタリング・プログラム」を2022年度から継続して実施し、本学の女性教員のエンパワメントとリーダーシップを後押ししています。



さまざまなプログラム活動に学生や教員が参加

APRUは、加盟大学と連携して多岐にわたるプログラムを展開しており、慶應義塾大学からも学生や教員が積極的に参加しています。2025年度は、Certificate in Global Climate Change LeadershipやMulti-Hazards Summer Schoolにそれぞれ学生や教員が参加し、さまざまな国・地域からの参加者との協働を通じて、複雑な地球規模課題の解決に向けて取り組みました。



RENKEI（日英大学間連携プログラム）

RENKEIは、2012年に設立された研究連携を中心とした大学コンソーシアムで、日英の10大学が加盟しています。大学間のみならず、政府、産業界、民間非営利団体との連携を積極的に構築し、グローバル社会の課題に応える研究の推進を目指しています。また、若手研究者が国際的な活躍をするための素地の形成を支援しています。慶應義塾大学は2023年から加盟し、2025年度は日本側のCo-chairを務めました。

RENKEI気候変動・エネルギーワークショップ

2025年5月6日から9日にかけて、英国ニューカッスル大学ならびにダラム大学の主催でRENKEIによる気候変動・エネルギーワークショップが行われました。慶應義塾大学からは土屋常任理事、武井良修法学部准教授、和田直樹環境情報学部准教授が参加しました。4日間にわたるワークショップは、「Just Transitions to a Net Zero World（ネット・ゼロ社会への公正な移行）」をテーマに実施されました。加盟大学から集まったさまざまな分野の研究者が、大学・政府・企業・ローカルコミュニティ間の連携事例など、テーマに沿った多様な研究プロジェクトについて学ぶとともに、グループワークを行いました。グループワークでは、都市環境・産業・政策・気候正義・環境公衆衛生といった視点から日英の研究者がどのように連携し得るか議論を交わし、学際的な共同研究の可能性を模索しました。





土屋常任理事がエドワード・ボイル卿記念講演にパネリストとして登壇

2025年10月10日、土屋常任理事が「エドワード・ボイル卿記念講演（高等教育におけるグローバルパートナーシップの重要性とRENKEIネットワークの事例）」にパネリストとして登壇しました。本イベントは、英国リーズ大学、王立芸術・製造・商業協会（RSA）、およびRENKEIの協働により、立命館大学大阪いばらきキャンパスにて開催されました。講演では、高等教育・研究・イノベーション分野における国際協力の重要性をテーマに、RENKEIによる日英の若手研究者の交流促進や共同研究の機会創出に向けた取り組みが紹介されました。土屋常任理事は、福澤諭吉が1862年に英国を訪問し、ロンドン万博などを見聞したことが『西洋事情』の執筆につながった経緯に触れ、RENKEIのような大学間パートナーシップの意義、特に実際に異国を訪ねて交流することの重要性を強調しました。





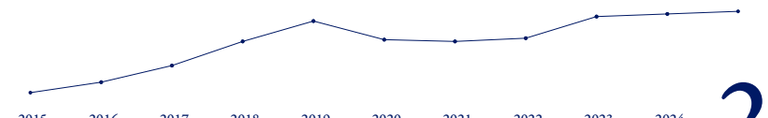
2025年度の取り組み

2.　教育・研究活動

国際人材交流

世界から慶應へ

受入留学生数の推移



2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
1,418	1,518	1,677	1,908	2,103	1,925	1,908	1,939	2,146	2,171	2,196

※各年5月1日時点　※正規生、非正規生、別科・日本語研修課程、特別短期留学生を含む

国・地域別 受入留学生数

中国	951	イタリア	35	ノルウェー	14
韓国	367	タイ	34	スウェーデン	13
フランス	137	カナダ	26	オーストラリア	10
台湾	101	英国	25	フィリピン	10
米国	100	シンガポール	21	マレーシア	10
ドイツ	48	スイス	18	その他	162
インドネシア	46	スペイン	17		
ベトナム	36	インド	15		

※2025年5月1日時点　※正規生、非正規生、別科・日本語研修課程、特別短期留学生を含む

英語による授業数（語学を除く）

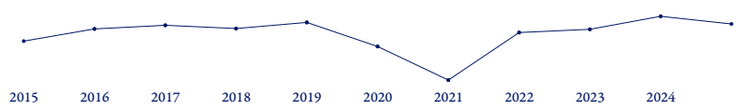
797 ※2025年6月時点

英語で学位取得可能なプログラム数

20 ※2025年6月時点

慶應から世界へ

派遣交換留学生数の推移



2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
296	360	379	362	394	268	92	341	358	426	386

※各年5月1日時点

国・地域別 派遣留学生数

米国	68
フランス	67
ドイツ	33
英国	30
イタリア	22
中国	21
オーストラリア	18
スイス	18
オランダ	17
カナダ	17
スウェーデン	12
韓国	9
スペイン	8
台湾	8
ベルギー	8
ノルウェー	7
シンガポール	5
ポーランド	4
オーストリア	3
ニュージーランド	3
ハンガリー	3
その他	10

※2025年5月1日時点
※2カ国に派遣するプログラムがあるため派遣留学生数の合計とは異なる

ダブルディグリープログラム数

29 ※2025年度

ダブルディグリープログラム協定校一覧

経済学部	パリ政治学院（Sciences Po）	フランス	学士課程
経済学部	ボッコーニ大学	イタリア	学士課程
商学部	北京大学	中国	学士課程
経済学研究科	CEMS MIM（CEMS Master in International Management）プログラム*1	多国間	修士課程
商学研究科	CEMS MIM（CEMS Master in International Management）プログラム*1	多国間	修士課程
メディアデザイン研究科	CEMS MIM（CEMS Master in International Management）プログラム*1	多国間	修士課程
経済学研究科	ブランダイス大学	米国	修士課程
理工学部・理工学研究科	エコール サントラルグループ *2	フランス	学部修士一貫
理工学研究科	ルーヴァン・カソリック大学	ベルギー	修士課程
理工学研究科	ブリュッセル自由大学	ベルギー	修士課程
理工学研究科	IMTアトランティック	フランス	修士課程
理工学研究科	MINESサンテティエンヌ	フランス	修士課程
理工学研究科	パリ国立高等鉱業学校（MINES Paris）	フランス	修士課程
理工学研究科	ライプニッツ大学ハノーファー	ドイツ	修士課程
理工学研究科	アーヘン工科大学	ドイツ	修士課程
理工学研究科	ミュンヘン工科大学	ドイツ	修士課程
理工学研究科	ミラノ工科大学	イタリア	修士課程
理工学研究科	マドリード工科大学	スペイン	修士課程
理工学研究科	スウェーデン王立工科大学	スウェーデン	修士課程
理工学研究科	Japan-EU高度ロボティクスマスタプログラム（JEMARO）*3*4	フランス、イタリア、ポーランド	修士課程
経営管理研究科	エセック経済商科大学院大学	フランス	修士課程
経営管理研究科	HEC経営大学院	フランス	修士課程
政策・メディア研究科	復旦大学	中国	修士課程
政策・メディア研究科	延世大学GSIS	韓国	修士課程
政策・メディア研究科	延世大学	韓国	修士課程
法務研究科	ワシントン大学	米国	修士課程
法務研究科	ハノイ法科大学	ベトナム	修士課程
法務研究科	ベトナム国家大学ホーチミン市経済法科大学	ベトナム	修士課程
法務研究科	タマサート大学	タイ	修士課程

＊1：CEMS加盟校は33校（本学を含む）　＊2：リール、リヨン、サントラルメディテラネ、ナント、サントラルスペレック
＊3：パートナー校は、エコール サントラル・ナント、ジェノヴァ大学、ワルシャワ工科大学　＊4：2026年度に派遣・受入終了予定



世界に広がる交流の輪
海外パートナー大学・機関（全塾学生交換協定校）

Europe / Middle East

Austria	WU (Vienna University of Economics and Business)
Belgium	Universiteit Antwerpen
Denmark	Aarhus University
Finland	University of Helsinki
France	École normale supérieure (ENS)
France	EDHEC Business School
France	ESSEC Business School
France	HEC Paris
France	INALCO
France	Sciences Po
France	Université Côte d'Azur
France	Université de Strasbourg
France	Université Jean Moulin Lyon 3
France	Université Paris 1 Panthéon-Sorbonne
France	Université Paris Cité
France	Université Sorbonne Nouvelle
France	Université Toulouse Capitole
Germany	Freie Universität Berlin
Germany	Heinrich Heine University Düsseldorf
Germany	Martin Luther University Halle-Wittenberg
Germany	RWTH Aachen University
Germany	Saarland University
Germany	Technische Universität Darmstadt (TU Darmstadt)
Germany	Technische Universität München (TUM)
Germany	TU Dresden
Germany	University of Bonn
Germany	University of Cologne
Germany	University of Siegen
Germany	WHU - Otto Beisheim School of Management
Greece	National and Kapodistrian University of Athens
Hungary	University of Pécs
Ireland	University College Dublin
Italy	Ca' Foscari University of Venice
Italy	"L'Orientale" University of Naples
Italy	Sapienza Università di Roma
Italy	Università Bocconi
Italy	Università degli Studi di Milano
Italy	University of Pavia
Netherlands	Erasmus University Rotterdam
Netherlands	Leiden University
Netherlands	University of Amsterdam
Netherlands	VU Amsterdam
Norway	University of Bergen
Norway	University of Oslo
Poland	University of Warsaw
Russia	Far Eastern Federal University
Russia	Lomonosov Moscow State University
Russia	Saint Petersburg State University
Spain	ESADE Business School
Spain	Pompeu Fabra University (UPF)
Spain	Universidad de Salamanca (USAL)
Spain	Universitat Autònoma de Barcelona (UAB)
Spain	University of Navarra
Sweden	KTH
Sweden	Lund University
Sweden	Örebro University
Sweden	University of Gothenburg
Sweden	Uppsala University
Switzerland	University of Bern
Switzerland	University of Geneva (UNIGE)
Switzerland	University of Lausanne (UNIL)
Switzerland	University of St. Gallen
Switzerland	University of Zurich
Turkey	Boğaziçi University
United Kingdom	Cardiff University
United Kingdom	Durham University
United Kingdom	King's College London
United Kingdom	Royal Holloway, University of London
United Kingdom	SOAS University of London
United Kingdom	The University of Cambridge Downing College
United Kingdom	The University of Edinburgh
United Kingdom	The University of Manchester
United Kingdom	The University of Sheffield
United Kingdom	The University of Warwick
United Kingdom	University of Birmingham
United Kingdom	University of Glasgow
United Kingdom	University of Southampton
United Kingdom	University of St Andrews
United Kingdom	University of York (UK)

Asia

Brunei Darussalam	Universiti Brunei Darussalam
China	Beijing Foreign Studies University
China	Beijing Normal University
China	City University of Hong Kong
China	Fudan University
China	Jilin University
China	Nanjing University
China	Nankai University
China	Peking University
China	Renmin University of China
China	Shanghai Jiao Tong University
China	The Chinese University of Hong Kong
China	The University of Hong Kong
China	Tsinghua University
China	University of Macau
China	Xi'an Jiaotong University
China	Zhejiang University
Indonesia	Universitas Indonesia
Korea	Ewha Womans University
Korea	Korea University
Korea	Pusan National University
Korea	Seoul National University
Korea	Yonsei University
Malaysia	Universiti Malaya
Philippines	University of the Philippines
Singapore	National University of Singapore
Singapore	Singapore Management University
Singapore	Singapore University of Technology and Design (SUTD)
Taiwan	National Chengchi University
Taiwan	National Cheng Kung University
Taiwan	National Taiwan University
Thailand	Chulalongkorn University
Viet Nam	Foreign Trade University

North America

Canada	Concordia University
Canada	McGill University
Canada	Queen's University
Canada	Simon Fraser University
Canada	The University of British Columbia
Canada	Université de Montréal
Canada	University of Calgary
Canada	University of Toronto
Canada	York University (Canada)
United States	Allegheny College
United States	American University
United States	Boston University
United States	Brandeis University
United States	Brown University
United States	Bryn Mawr College
United States	Carnegie Mellon University
United States	Dartmouth College
United States	Georgetown University
United States	Illinois Wesleyan University
United States	Manhattanville University
United States	Rice University
United States	The College of William & Mary
United States	The University of North Carolina at Chapel Hill
United States	University of California Education Abroad Program
United States	University of Hawai'i at Mānoa
United States	University of Illinois at Urbana-Champaign
United States	University of Maryland, College Park
United States	University of Notre Dame
United States	University of Pennsylvania
United States	University of Washington
United States	University of Wisconsin-Madison
United States	Western Michigan University

Central / South America

Argentina	Universidad Torcuato Di Tella
Mexico	Tecnológico de Monterrey

Oceania

Australia	The Australian National University
Australia	The University of Melbourne
Australia	UNSW Sydney (The University of New South Wales)
Australia	The University of Queensland
Australia	The University of Sydney
New Zealand	The University of Auckland
New Zealand	University of Otago

※2026年2月時点

国際センターと各キャンパスでの取り組み



国際センター

国際センターは、世界の高等教育機関等との協力関係のもと、学生や研究者の派遣・受入を推進する慶應義塾の国際交流拠点です。大学執行部の国際活動を支えるグローバル本部と共に本学の国際方針・戦略の策定をするだけでなく、協定校との折衝、国際教育プログラムやイベントの実施、留学生に対する学習・生活面での支援、海外への留学を希望する学生・研究者のサポートなど、国際交流のあらゆる場面で幅広い活動を推進しています。

国際センター講座

主に日本や東アジアの文化、歴史、政治、経済などについて留学生と日本人学生が共に英語で学ぶことができる授業を提供しています。講義だけでなく、グループワークを行う科目も多く、多様な学生が共に学ぶことで、国際的な視野と英語によるコミュニケーション能力を養います。

交換協定に基づく学生交換プログラム（派遣・受入）

全塾交換協定による派遣交換留学により、2025年度は27カ国（地域）、112大学に241名の学生を派遣しました。学部・研究科の協定による派遣留学生（ダブルディグリープログラムを含む）とあわせて2025年5月1日時点で386名、2025年度末までに延べ692名が留学をしました。また、全塾学生交換協定により受け入れた交換留学生数は、延べ594名でした。

国際センター短期海外研修プログラム（夏季・春季）

全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季および春季休校期間中に海外で短期海外研修プログラムを開講しています。2025年度は、夏季に2プログラム、春季に2プログラムを実施し、140名の学生が参加しました。

夏 ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

2025年8月4日～8月18日




参加人数：30名

米国の州立大学ウィリアム・アンド・メアリー大学で、歴史・政治・文化を学ぶプログラムです。講義やフィールドワーク、ワシントンD.C.へのフィールドトリップに加え、現地学生とのグループワークを通じて学びを深めます。同世代の米国人大学生・大学院生とも深く交流できることも、本プログラムの大きな特色です。

夏 ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

2025年8月9日～9月6日




参加人数：62名

1970年代後半に始まった英国ケンブリッジ大学ダウニング・コレッジと慶應義塾大学との長年のパートナーシップのもと、実施される4週間の研修プログラムです。英語集中研修や専門講義、SDGsワークショップを通じて学びを深めるとともに、現地学生や世界各国から集う学生との交流を通じて幅広い異文化交流を体験することができます。

春 パリ政治学院（シアンスポ）春季講座

2026年2月28日～3月21日




参加人数：30名

フランスの名門グランゼコールの一つであるパリ政治学院（シアンスポ）で、EUの政治・経済・社会・文化、国際関係について学ぶプログラムです。講義やエッセイ作成、EU関連機関へのフィールドトリップを通じて、欧州社会についての知識と理解を深めるほか、フランス語学習や現地学生との交流を通して、フランスの言語や文化にも触れることができます。

春 エセックス大学春季講座

2026年2月28日～3月14日




参加人数：18名

英国のエセックス大学で、英国文化と歴史に触れながら、英語力と異文化理解を深めるプログラムです。少人数制のインタラクティブな講義や体験型アクティビティに加え、学習成果を発表する最終プレゼンテーションを通じて学びを深め、英語による実践的なコミュニケーション能力を養います。

Thesis@Keio

修士・博士論文執筆のための研究を目的とする大学院生対象の短期留学生受入プログラムです。参加者は、慶應義塾大学において7日以上89日以内の研究活動を行い、本学の受入教員による研究指導や助言を受けることができます。協定校以外の大学に在籍する学生も受け入れています。

三田 Mita Campus

PEARL（Program in Economics for Alliances, Research, and Leadership）



経済学部で2016年度に開設されたPEARLは、英語で経済学を学び、4年間で学位取得ができる9月入学のプログラムです。確かな経済学の知識を基盤に、世界を舞台に活躍する先導者の輩出を目指しています。知識の習得にとどまらず、自ら考え、社会や未来を創造する力を育むため、リベラルアーツ教育と高度な経済学を組み合わせた世界水準の学びを提供しています。現在、日本をはじめ世界各国から集まった約400名の学生が学んでいます。

PCP（Professional Career Program）

経済学部では「未来をデザインする」ことのできるグローバルリーダーの育成を目的とし、実践的な経済学を学ぶProfessional Career Programを2005年度より設置しています。海外の大学院・専門職大学院への進学、国際機関や多国籍企業など国際的な環境でのキャリア形成を目指す学部3・4年生を主な対象としています。すべての授業や試験、教員とのコミュニケーションが英語で行われ、英語による高度なコミュニケーション能力と、経済学分野における実証研究を自ら遂行する能力を養います。

GPP（Global Passport Program）

商学部では、選抜された約40名の学部3・4年生を対象に、商学にかかわる専門科目を英語で学ぶGlobal Passport Programを2014年度より設置しています。参加学生は、大学院修士課程入門レベルの「Coursework」で高度な専門知識を英語で学び、少人数形式の「Workshop」で実践的な課題解決に取り組みます。その他、協賛企業による講演会や工場見学、短期海外研修など、グローバル企業や海外大学との交流機会も提供しています。海外からの留学生も多く受講するため、キャンパスにいながらにして留学空間を体験できるプログラムです。

国際租税留学プログラム（Taxation Policy and Management）

商学研究科の国際租税留学プログラムは、開発途上国の税務行政に携わる人材を対象とし、税制と経済発展との関係を英語で学び、税務大学校等での実務研修を行う修士課程制度です。1996年に世界銀行の支援を受けて開始され、日本の国税庁・税務大学校との連携により、2020年度までに毎年約5名の留学生が世界銀行からの奨学金を受け、この制度のもとで学んできました。2022年9月からは商学研究科独自の国際租税留学プログラムとして改組され、現在は世界銀行やアジア開発銀行の支援を受けて運営されています。約30年にわたり多くの修了生を輩出し、開発途上国の税務行政を担う国際人材の育成に貢献しています。

CEMS MIM（CEMS Master in International Management）



The CEMS Global Allianceは、世界トップレベルの大学およびビジネススクール、提携するグローバル企業やNGOで構成される国際的なネットワークです。提供するダブルディグリープログラムのCEMS MIM（国際経営学修士コース）において国際的に活躍するビジネスパーソンとしての知識と実践を学び、所定の修了要件を満たすことで、在籍するCEMS加盟校からの修士号と国際経営学修士の学位の両方を取得できます。CEMS MIMは、QS Business Master's Rankings 2026: Managementにおいて世界第4位にランクインしており、国際経営学プログラムとして国際的にも高い評価を受けています。CEMSへの加盟は各国1校と限られており、日本では慶應義塾大学が唯一の加盟校です。本学では、経済学研究科・商学研究科・メディアデザイン研究科の学生がCEMS MIMプログラムに参加することができます。

グローバル法務専攻（LL.M.）

2017年に法科大学院（大学院法務研究科）に併設された、1年間で「法務修士（LL.M.）」の学位取得可能な専門職大学院です。定員30名の少人数教育を徹底し、世界各国から国際的なバックグラウンドを持った学生が集まる環境の中で、すべての授業が英語で行われます。国際的で高度な法的専門知識、広い見識、さらには実務能力を備え、実践的に活躍することのできる人材の養成を目指しています。

日吉 Hiyoshi Campus

GIC（Global Interdisciplinary Courses）

国際的かつ学際的な人材育成の拠点として2016年に設置されたGICセンターは、すべての学部学生が履修できる外国語による授業を提供してきました。2024年度からは、複数の教員が協同で担当する少人数制授業を新たに開始し、より充実した学際的科目群を提供しています。2025年度は新GIC科目群として、英語8科目、スペイン語1科目、韓国語2科目を開講しました。

日吉コミュニケーション・ラウンジ



日吉キャンパスにおける多文化交流を促進すると共に、既存の枠にとらわれない柔軟な発想での教育や学生の活動を支援するため、第4校舎独立館地下1階に「日吉コミュニケーション・ラウンジ」が設置されています。毎年実施されている日吉留学フェアの会場としても活用され、学内の国際交流の場として広く利用されています。

矢上 Yagami Campus



理工学部・理工学研究科ダブルディグリープログラム開設20年記念シンポジウム



2025年11月5日から6日、理工学部・理工学研究科のダブルディグリープログラム開設20年を記念したシンポジウム"Commemorative Symposium for the 20th Anniversary of the Double Degree Program in Keio Science and Technology - Looking Ahead to the Brain Circulation Ecosystem in 2040"が三田キャンパスにて開催され、日本国内外の大学関係者やダブルディグリー修了生など延べ約100名が参加しました。参加者は教育機関・学生・社会の三者を視野に入れた国際教育・学位プログラムの将来像について議論を深め、グローバル人材育成の新たなフレームワークの構築に向けた意識を共有しました。

COLUMN

ダブルディグリープログラム:グローバルな専門性と語学力を兼ね備えた人材の育成

ダブルディグリープログラムは、慶應義塾大学と海外協定校の合意のもとで準備された一連のカリキュラムを修了することで、両校から学位を取得できる仕組みです。参加学生は、慶應義塾大学の学位に加え、派遣先大学の学位取得を目指し、双方の修了要件を満たす必要があります。単に2つの学位が取得できるだけではなく、専門分野の学習と異なる文化圏で学び生活する経験を通じて、国際化が進む社会への理解を深めることが期待されています。

本学工学部・理工学研究科のダブルディグリープログラムは、欧州の理工系高等教育機関ネットワークであるT.I.M.E. Associationの理念に基づいて運営されています。同協会は、多文化・多言語環境で活躍できるエンジニアの育成を目的として設立され、現在では世界27カ国60校が参加しています。本学は2005年に開始したエコールサントラルとのダブルディグリーをきっかけとして、2007年に東北大学と並んで日本の大学として初めて加盟を果たしました。EU統合に象徴されるように、欧州域内では国境はもはや大きな意味を持たず、人も物も自由に往来しています。そのような環境では異なる文化・言語を理解する専門家の輩出が喫緊の課題であり、T.I.M.E. Associationは各国の理工系高等教育機関の連携により、国際的な理工系人材の育成を推進しています。

信濃町 Shinanomachi Campus



医学部生のための短期海外留学プログラム

医学部では、教育目標（卒業時コンピテンス）の一つに「国際医療人としての資質」を掲げ、学生の海外留学や国際交流を積極的に推進しています。5年生を対象とした「短期海外留学プログラム【臨床】」では、書類・面接により選抜された学生が、希望する海外の病院にて約1ヶ月間の臨床実習を行います。指導医のもとで現地学生と同様に実習に従事し、異なる文化社会における医療や医学教育を体験します。2025年度は64名が参加し、1984年のプログラム開始以来、合計778名の医学部生を派遣しました。その他にも、海外の研究機関への研究留学、コロンビア大学「International Collaboration and Exchange Program」（通称ICE Program）、医療系三学部合同教育によるラオス保健医療研修など、幅広い国際交流プログラムを提供しています。

湘南藤沢 Shonan Fujisawa Campus



GIGAプログラム（Global Information and Governance Academic Program）

GIGAプログラムは、慶應義塾大学初の学部における英語によるプログラムとして、2011年9月に環境情報学部で始まり、2015年度からは総合政策学部でも展開されています。学年や入試形態に関わらずGIGAプログラムの科目を履修することができ、英語で提供される授業のみで学部卒業が可能です。グローバルな課題に挑み、世界で活躍できる実践力、知的コミュニケーションおよびコラボレーション能力に優れた人材を育成します。

オンキャンパス型の国際学生寮「H（イータ）ヴィレッジ」

慶應義塾大学で唯一、キャンパス敷地内にある学生寮「H（イータ）ヴィレッジ」は、日本人学生と留学生が共に学び生活する混住型の国際学生寮です。5名1ユニットとなっており、「暮らしながら学ぶ、学びながら暮らす」をコンセプトとし、日本全国・世界各地から集まった多様な価値観を持つ学生たちが、共に学び合い、共に生活することにより、グローバルな交流を育んでいます。

芝共立 Shiba-Kyoritsu Campus



グローバルマインドを育む薬学部の多様な段階的国際教育プログラム

薬学部では、臨床・創薬など幅広いフィールドにおいて、日本の薬学を先導する国際的な視野を持った人材育成を目指したプログラムを選択科目として提供しています。学部2・3年生向けには1週間の早期海外体験「Thai Pharmacy Experience」、学部5・6年生向けには海外協定校教員による症例検討などの国際的な学習機会を設けています。また、学部6年生・大学院生向けに、海外協定校での4〜5週間にわたる「海外アドバンスト実習（臨床研修）」や、米国協定校で世界の薬学生とともに医薬品開発における行政・企業の役割を学ぶ「アドバンストレギュラトリーサイエンス海外演習」など、学年や目的に応じた多様なプログラムを展開しています。

COLUMN

ラオス・プライマリヘルスケア保健医療チーム活動プログラム（医学部・看護医療学部・薬学部）



医学部、看護医療学部、薬学部の医療系3学部が合同の医療保健チームとして、ラオス国をフィールドにプライマリヘルスケア活動を行う海外研修プログラムです。2009年に看護医療学部のプログラムとして開始し、2011年から医療系3学部の合同プロジェクトとして発展しました。参加学生は、ラオスの保健医療や国際医療活動について事前学習した後、現地でJICA、WHO、UNICEF等の国際機関や医療機関を訪問し、住民参加型のヘルスケア活動の学習をはじめ、現地医療系学生との交流、農村部でのフィールドワーク、小学校での保健教育などを行います。学年や専門分野を超えて協働して課題に取り組むことで、チーム医療に必要な実践力を養い、日本と世界の医療現場で活躍する未来の医療人を育成します。

研究の国際化



地球社会の課題解決に向けて、総合大学としての特色を活かした最先端の学際的研究を推進しています。海外の大学や企業・研究機関との国際共同研究プロジェクトなどを通じて、世界中の研究者と幅広い分野で連携し、得られた成果は社会へと広く還元されています。また、研究による最先端の知見や学際的な視点は、学生の教育にも反映されています。

J-PEAKSでの国際連携の取り組み

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）とは

J-PEAKSは、地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、強みや特色のある研究力を核とした戦略的経営のもと、研究活動の国際展開や社会実装の加速等による研究力強化に向けた環境整備を実施することを支援します。慶應義塾大学は本事業において、沖縄科学技術大学院大学（OIST）およびキングス・カレッジ・ロンドン、ケルン大学、延世大学、ノースウェスタン大学、カーネギーメロン大学、ロンドン大学SOAS、アラブ首長国連邦大学を、組織的な連携を図る連携機関として迎え、日本全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を目指します。

海外参画機関との連携



ケルン大学 University of Cologne

2025年10月、ケルン大学との共催により、「DWIH東京シンポジウム：高齢化社会を支えるイノベーション」を三田キャンパスにて開催しました。ドイツや日本の大学、政府、企業関係者など多様な参加者が集い、健康的な高齢化に向けた革新的な解決策や国際的な連携戦略について議論しました。また、両校の学長同士による懇談も実施し、さらなる連携強化に向けた意見交換を行いました。



延世大学 Yonsei University

2025年12月、両校を含む日韓の私立4大学による日韓ミレニアムフォーラムでの交流のほか、延世大学との共催により、「Humanities at Risk?」をテーマとしたYonsei-Keio Public Seminarを、三田キャンパスにて開催しました。AI時代における教育研究の課題や高等教育の将来像などについて、人文学の視点から活発な議論が展開されました。



ロンドン大学SOAS SOAS University of London

2026年1月、慶應義塾大学大学院文学研究科とロンドン大学SOASとの共催による国際シンポジウム「Digital Humanities in Global Context: Critical Approaches to Data, Archives, and Identity」を、三田キャンパスにて開催しました。研究者や大学院生が多様な研究テーマを通じてデジタル・ヒューマニティーズ（DH）の可能性や課題について発表・議論し、国内外のDHコミュニティの最新動向について理解を深めました。



カーネギーメロン大学 Carnegie Mellon University

慶應義塾大学とカーネギーメロン大学（CMU）のAIパートナーシップのもと、研究メンバー企業9社とともに次世代のAIをリードする慶應AIセンターを中心に、2025年4月、「Keio-CMU AI Research Workshop 2025」を日吉キャンパスにて開催しました。同年9月には、伊藤塾長および慶應AIセンター関係者がCMUを現地訪問し、研究プロジェクトの進捗状況の報告等を行いました。



アラブ首長国連邦大学 United Arab Emirates University

2025年5月に開所したシェイハ・ファーティマ・アラビック・ラーニングセンター（ALC）の主催により、同年8月、アラブ首長国連邦大学（UAEU）から派遣された講師陣によるアラビア語教師養成講座を開催しました。2026年2月には奥田常任理事、斎木敏治常任理事、土屋常任理事がUAEUを訪問し、今後の教育・研究連携について議論を深めました。

OIST（沖縄科学技術大学院大学）との連携

OIST-Keio Showcase Talk Series Vol.8/ Vol.9/ Vol.10



慶應義塾大学とOISTとのトークイベントシリーズ「OIST-Keio Showcase Talk」の第8回を2025年10月に本学矢上キャンパスにて、第9回を2026年1月に、第10回を2026年3月にOISTメインキャンパスにて開催しました。第8回は「Science Meets Society: Twist, Flow, and Instability」、第9回は「Proteins in Focus: Cryo-EM and Structural Frontiers」、第10回は「Diverse Approaches to Fluid Dynamics」をテーマに、両校の研究者がさまざまなアプローチから最先端の知見を紹介し合い、新たなコラボレーションへ向けた議論を行いました。

OIST-Keio International Research Summer Camp 2025



提供：OIST/Andrew Scott (CC BY 4.0)

教育面での連携活動として、毎年OISTにて開催されるInternational Research Summer Campに慶應義塾大学医学部の学生を派遣しています。2022年度から開始された本プログラムは主に医学部2年生が参加し、学内公用語を英語とする環境下で研究の基礎的能力を身につけています。2025年度は、7月28日～8月6日に開催され、20名が参加しました。

OIST-Keio Research Internship Program

OISTで実施されるResearch Internship Programには、2020年から慶應義塾大学医学部の学生が参加しています。2023年度から、OISTがジョンズ・ホプキンス大学（米国）とともに「自主学習」（医学部必修科目）の派遣対象校となったことを受け、本プログラムに「自主学習」も取り入れられています。学生は第3学年の7月～10月までの4か月間、派遣先のラボに所属し、教員とマンツーマンで英語による研究実習を経験後、単位認定を受けます。2025年度は6名の学生がOISTに滞在し、研究に取り組みました。

世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）での取り組み

文部科学省が推進する世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）において、慶應義塾大学の「ヒト生物学－微生物叢－量子計算研究センター（Bio2Q）」は、2022年度拠点として私立大学で初めて採択されました。WPIは、高度に国際化された研究環境と世界トップレベルの研究水準を誇る国際研究拠点を形成する事業です。

Bio2Qでは、マイクロバイオーム（微生物叢）と多臓器の相互作用の仕組みを解き明かし、さらに最先端の人工知能（AI）や量子コンピューティング技術も活用しながら、人々が健やかに長生きできる社会の実現を目指しています。国内外の優れた研究機関と連携し、世界をリードする研究者との共同研究を推進しています。

また、研究活動にとどまらず、支援体制を含めた研究環境全体の国際化が本プログラムの大きな柱のひとつです。英語で研究支援を行える多国籍の人材を配置し、研究者の着任支援・生活支援や助成金獲得支援などを通じて、外国人研究者への包括的支援を推進し、国際性と多様性を備えた研究拠点の基盤強化に取り組んでいます。

第4回 慶應義塾大学 WPI-Bio2Q 国際シンポジウム



2025年12月2日から3日、芝共立キャンパスにて「健康長寿のための、生物学、マイクロバイオーム、代謝産物解析の融合」と題した国際シンポジウムが開催されました。世界トップレベルの科学者12名が最新の研究進捗を講演し、延べ255名の参加者とともに活発な議論を行いました。また、初日の最後には若手研究者15名によるポスターセッションが行われ、新しい科学のアイデアが披露されました。多くの参加者と貴重な意見交換がなされ、最終日には最も優れたポスター発表を行った3名が表彰されました。

COLUMN

国際研究連携の広がり/展開

グローバル教授制度

本制度は、慶應義塾大学の国際的かつ分野横断的な研究・教育活動の推進を目的として、海外研究機関に所属する研究者を「グローバル教授［特別招聘教授（国際）／Guest Professor(Global)］」として任用し、招聘に関わる費用を助成する制度です。グローバル教授は、共著論文の執筆、国際共同研究の組成などを通じて、本学の国際的なレピュテーション向上への貢献が期待されています。2025年度は130名の研究者をグローバル教授として任用しました。

2025年度グローバル教授からのコメント

国際的な学術交流を推進し、現行および今後の研究プロジェクトにおいて継続的な協力関係を構築する機会を提供する優れた制度です。受入教員のサポートは素晴らしく、交流した研究者はいずれも高い専門性、国際競争力を有していると感じました。

※原文（英語）を和訳

2025年度の取り組み

3.　国際広報

慶應義塾の教育・研究活動をウェブサイトやSNS等を通じて、国内外に広く発信しています。

Keio Research Showcaseポータルサイト公開

2025年5月、慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）は、慶應義塾の魅力的な研究や研究者の情報をコンテンツ化し、一元的に発信する「Keio Research Showcase」ポータルサイトを公開しました。このポータルサイトでは、研究紹介動画や研究者情報の検索・案内が可能です。寄付や共同研究の窓口としての機能も備えています。



Keio Research Highlights

慶應義塾大学の幅広い研究分野における革新的な成果や最新の研究を、世界に向けて英語で紹介するウェブサイトです。



Facebook



Instagram



The Penmark

慶應義塾大学の最新ニュースや研究内容をお届けする英文の月刊メールマガジンです。



世界大学ランキング

慶應義塾大学の国際的な評価を示す一つの指標として、世界大学ランキングの結果を紹介します。

QS World University Rankings by Subject 2026：「Social Sciences & Management」世界トップ100にランクイン

2026年3月25日、QS社からQS World University Rankings by Subject 2026が発表されました。本ランキングは、5つの大分野（Broad Subject Area）と55の個別分野（Narrow　Subject）で順位が発表されます。慶應義塾大学は、5つの大分野のうち、Social Sciences & Management分野で世界100位に入り、2020年以降で最高の順位となりました。個別分野においては、13分野で世界200位以内にランクインし、Classics & Ancient History分野では世界50位以内に入りました。



世界200位以内にランクインした13の個別分野

トップ50	Classics & Ancient History	46位		Business & Management Studies	138位
トップ100	Modern Languages	83位	101～200位	Data Science and Artificial Intelligence	101-200位
	Economics & Econometrics	99位	151～200位	Engineering – Mechanical, Aeronautical & Manufacture..	151-200位
101～150位	Accounting & Finance	101-150位		History	151-200位
	Geography	101-150位		Computer Science & Information Systems	194位
	Law	101-150位		Medicine	194位
	Politics & International Studies	101-150位			

Highly Cited Researchers 2025（世界で影響力のある研究者）：日本から選出の88名中、慶應義塾大学から7名が選出される

2025年11月12日、Clarivate Plcが毎年選出している「Highly Cited Researchers（以下HCR）」に、慶應義塾大学から以下の7名の研究者が選出されました。HCR（高被引用論文著者）は、複合領域を含む22分野を対象とし、論文の被引用回数が上位1%に入る論文を複数発表している傑出した研究者の中から選出されます。2025年版では、世界の60の国と地域から6,868名が選出されており、そのうち日本からの選出者は88名でした。

研究者名	所属	受賞カテゴリー
金井 隆典 教授	医学部 内科学（消化器）教室	複合領域
本田 賢也 教授	医学部 微生物学・免疫学教室	免疫学
佐藤 俊朗 教授	医学部 医化学教室	複合領域
吉村 昭彦 名誉教授	研究当時は医学部 微生物学・免疫学教室教授、現在東京理科大学教授	複合領域
新 幸二 訪問教授	研究当時は医学部 微生物学・免疫学教室准教授、現在九州大学教授	複合領域
長谷 耕二 教授	薬学部	複合領域
メンデ, ダニエル 特任教授	ヒト生物学－微生物叢－量子計算研究センター（Bio2Q）	生物学・生化学分野



COLUMN

日吉キャンパスにて留学フェア2025を開催

国際センター主催の「慶應義塾大学留学フェア2025」が、6月17日～20日に開催されました。本フェアは、学生に留学に関する幅広い情報を提供し、留学への関心喚起と早期準備の促進を目的としており、本年で19回目を迎えました。今回は対面開催を主軸とし、一部の説明会・個別相談をオンラインでも実施しました。各国の留学制度や語学試験、派遣交換留学に関する説明会、個別相談会のほか、各学部の学習指導員による相談やキャリアに関する相談も活発に行われ、多くの学生が参加しました。会期中の参加者数は延べ約1,600名となり、盛況のうちに終了しました。



イベントカレンダー

Event Calendar

2025

4月

教育 2025年度大学学部入学式、大学院入学式




外交 NATO事務総長と学生との対話イベント




研究 矢上キャンパスにイノベーション拠点「Yagami Innovation Laboratory」を開設




外交 U7+アライアンス学長会議にて、G7首脳会議（サミット）に向けたコミュニケ（共同声明）を発表

研究 カーネギーメロン大学との共催「AI Research Workshop 2025」

5月

外交 オードリー・タン氏とグレン・ワイル氏共著「PLURALITY」日本語版発売記念イベント




6月

教育 日吉キャンパスにアラビア語と文化の学びの場「シェイハ・ファーティマ・アラビック・ラーニングセンター（ALC）」を開所




研究 RENKEI気候変動・エネルギーワークショップ

外交 伊藤塾長がエストニア、ラトビアを訪問しタルトゥ大学およびラトビア大学を表敬




教育 留学フェア2025




外交 APRU第29回年次学長会議

7月

外交 ウルズラ・フォン・デア・ライエン氏に対する慶應義塾大学名誉博士称号授与式




8月

研究 矢上キャンパスInternational Coffee Break




外交 伊藤塾長がU7+のChair（議長）に選出

研究 土屋常任理事が日英教育産業ネットワーキングレセプションにて英国教育省パロネス・スミス・オブ・マルバーン大臣らと意見交換

教育 ウィリアム・アンド・メアリー大学／ケンブリッジ大学ダウニング・コレッジ夏季講座




教育 ALC主催アラビア語教師養成講座

9月

外交 伊藤塾長がブラウン大学、カーネギーメロン大学、ハーバード大学、イェール大学を訪問し、各大学の学長と懇談





教育 2025年度9月大学学部卒業式・大学院学位授与式




10月

教育 2025年度大学9月入学式（学部・大学院）




研究 2025年度J-PEAKS伴走チームによるサイトビジット




外交 APRU Senior International Leaders' Meeting 2025




研究 ケルン大学との共催「DWIH東京シンポジウム：高齢化社会を支えるイノベーション」

外交 土屋常任理事がエドワード・ボイル卿記念講演にパネリストとして登壇

11月

研究 第30回慶應医学賞授賞式・受賞記念講演会




教育 ファド・ベニス氏に対する慶應義塾大学名誉博士称号授与式




外交 国際刑事裁判所（ICC）・慶應義塾大学主催アジア太平洋学術フォーラム




12月

教育 理工学部・理工学研究科ダブルディグリープログラム開設20年記念シンポジウム

外交 第21回日韓ミレニアムフォーラム




教育 OpenAIと慶應義塾が「AIキャンパス構想」に基づいて包括連携覚書（MoU）を締結



教育 第41回留学生による日本語スピーチコンテスト

研究 Yonsei-Keio Public Seminar: Humanities at Risk?

研究 第4回 慶應義塾大学 WPI-Bio 2Q国際シンポジウム

研究 OIST-Keio Showcase Talk Series Vol.8 “Science Meets Society: Twist, Flow, and Instability”

教育 ALC主催アラビア語パフォーマンスコンテスト2025

2026

1月

研究 ロンドン大学SOASとの共催国際シンポジウム「Digital Humanities in Global Context: Critical Approaches to Data, Archives, and Identity」

2月

外交 「U7+ Presidential Delegates Meeting」

外交 伊藤塾長が世界経済フォーラム（WEF）年次総会（ダボス会議）に参加

研究 国際的な学術誌『Nature』編集長 マグダレーナ・スキッパー博士がCRIK信濃町を訪問

教育 Notionと慶應義塾、「世界最高峰のAIキャンパス」実現に向け戦略的連携を開始

外交 奥田常任理事、斎木常任理事、土屋常任理事がUAE大学を訪問

3月

教育 パリ政治学院／エセックス大学春季講座

教育 2025年度大学学部卒業式、大学院学位授与式

研究 オーストラリア主要8大学（Go8）とのリサーチ・ラウンドテーブル